

科目名	スピーキング・スキルズⅠ		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	日常生活において的確に英語を理解し、表現することができる。	2
	豊かなコミュニケーション能力	専門的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、コミュニケーションをとることができる。	3
科目概要	授業内容	Reading English manga, group work, discussion, developing strategies of communication. 英語の漫画を読み、グループで話し合い、会話の方法を学ぶ。	
	到達目標	Help students improve their speaking skills and gain confidence in a relaxed atmosphere. Help students maintain a conversation, give opinions and descriptions. リラックスし環境の中で会話の能力を高めて自信を持てるようにする。学生が継続して意見をもちその説明をできるようにする。	
授業計画	(1) Phonetics and phonemics. (2) Intonation. (3) Skit read through and performance. (4) Skit read through and performance. (5) New words and old words. (6) Eiken STEP test presentations. (7) Desert island group work (8) Tourist holiday planning (9) Restaurant scenario (10) Exchange verbal diaries (11) English songs (12) Interview twelve people (13) Battleships (14) Transcripts (15) Transcript performance		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	担当者作成資料	
	【参】	Chatterbox - Widdows - Nan'un-do ほか	
成績評価方法と基準	<基準> 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 <方法> 授業中の発表、コントリビューション50% 面接試験 50%		
備考			

科目名	スピーキング・スキルズⅡ		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を概ね英語で理解し、表現することができる。	3
	豊かなコミュニケーション能力	専門的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、コミュニケーションをとることができる。	3
科目概要	授業内容	Reading English manga, group work, interactive speaking games, songs and video. 英語の漫画を読み、グループで話し合い、会話の方法を学ぶ、ビデオ、曲。	
	到達目標	Help students improve their speaking skills and gain confidence in a relaxed atmosphere. Help students maintain a conversation and give opinions and descriptions. リラックスし環境の中で会話の能力を高めて自信を持てるようにする。学生が継続して意見をもちその説明をできるようにする。	
授業計画	(1) Chants. Singing and reading songs (2) Short speech preparations (3) Emotions quiz (4) Dream school timetable (5) Present timetable (6) Short speech presentations (7) Teach the world (8) Word associations (9) Air traffic controller (10) Tongue twisters and Dr Seuss (11) High street (12) Exchange new year stories (13) Restaurant scenario (14) Transcript practice (15) Transcript performances		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	担当者作成資料	
	【参】	Topic talk, Issues - McLean - EFL Press ほか	
成績評価方法と基準	<基準> 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 <方法> 授業中の発表、コントリビューション50% 面接試験50%		
備考			

科目名	リスニング・スキルズⅠ		
担当者	スコット・バーンズ / Scott Burns		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	日常生活において概ね英語を理解し、表現することができる。	1
科目概要	授業内容	海外のテレビ番組やテーマ別に作成されたテキストの中から会話を聴き取る演習を行なう	
	到達目標	海外の様々なテレビ番組中の会話の内容を理解できるように、リスニング力を高めることを目標とする	
授業計画	(1) 自己紹介(学生、講師) (2) 学生投票第1位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 1 (3) 学生投票第2位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 2 (4) 学生投票第3位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 3 小テスト (5) 学生投票第4位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 4 (6) 学生投票第5位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 5 (7) 学生投票第6位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 6 小テスト (8) 学生投票第7位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 7 (9) 学生投票第8位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 8 (10) 学生投票第9位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 9 小テスト (11) 学生投票第10位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 10 (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。	
使用教材・参考文献	【教】 Tactics for Listening 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 出席率授業への取り組み試験 <方法>		
備考	テキストで履修する課は、学生の投票によって決められるミニ劇を行う予定ですので、一緒に英語を楽しみましょう。		

科目名	リスニング・スキルズⅡ		
担当者	スコット・バーンズ / Scott Burns		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	日常生活において的確に英語を理解し、表現することができる。	2
科目概要	授業内容	海外の映画やテーマ別に作成されたテキストの中から会話を聴き取る演習を行なう	
	到達目標	海外の様々な映画の会話の内容を理解できるようにリスニング力を高めることを目標とする	
授業計画	(1) 自己紹介(学生、講師) (2) 学生投票第1位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 11 (3) 学生投票第2位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 12 (4) 学生投票第3位の課の演習 “小テスト” (5) 学生投票第4位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 13 (6) 学生投票第5位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 14 (7) 学生投票第6位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 15 小テスト (8) 学生投票第7位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 16 (9) 学生投票第8位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 17 (10) 学生投票第9位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 18 小テスト (11) 学生投票第10位の課の演習 “Ugly Betty” Episode 19 (12) 復習1 (13) 復習2 (14) 復習3 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・課題をこなす ・TV、CD等、何でもいいので英語を聴くこと。	
使用教材・参考文献	【教】 Impact Listening 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 出席率授業への取り組み試験 <方法>		
備考	テキストで履修する課は、学生の投票によって決められる		

科目名	リーディング・スキルズⅠ		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期/ 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	日常生活において概ね英語を理解し、表現することができる。	1
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の専門的事項を的確に理解している。	2
科目概要	授業内容	Reading selected books and texts. 配布する本および配布資料を読む。	
	到達目標	Improve the way students read and understand texts. Raise their confidence and ability when interacting with the English written word. テキストを読み理解する能力を高める。英文による情報に対する自信と能力を高めることを目標とする。	
授業計画	(1) Reading test and evaluation (2) Choosing book 1 and private reading (3) Reading comprehension (4) Group reading one book (5) Vocabulary building (6) Improve reading speed activity (7) Book report. Choose book 2 (8) Quizlet and reading passages (9) Quizlet and reading passages (10) Quizlet and reading passages (11) Quizlet and reading passages (12) Simple English Wikipedia (13) Word association (14) Book report preparation (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週選んだ本を読んでおくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 Reading Pass 1 - Bennett - Nan'un-do ほか		
成績評価方法と基準	<基準> 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 <方法> 授業中の発表、コントリビューション50% 試験 レポート50%		
備考			

科目名	リーディング・スキルズⅡ		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	日常生活において的確に英語を理解し、表現することができる。	2
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く理解している。	3
科目概要	授業内容	Reading selected books and texts. 配布する本および配布資料を読む。	
	到達目標	Improve the way students read and understand texts. To raise their confidence and ability when interacting with the English written word. テキストを読み理解する能力を高める。英文による情報に対する自信と能力を高めることを目標とする。	
授業計画	(1) Reading test and evaluation (2) Choose book 1 and private reading (3) Halloween (4) Class read a set text (5) Class read a set text (6) Vocabulary test (7) Basic English 850 (8) Combining words (9) Reading comprehension (10) Gap-fill sentences (11) Book reports I, II (12) Reading comprehension (13) Book report III (14) Book report IV (15) Reading comprehension		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週選んだ本を読んでおくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 Reading Advantage 1 - Malarcher - Thomson ほか		
成績評価方法と基準	<基準> 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 <方法> 授業中の発表、コントリビューション50% 試験 レポート50%		
備考			

科目名	ライティング・スキルズⅠ		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	豊かなコミュニケーション能力	一般的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、コミュニケーションをとることができる。	1
科目概要	授業内容	Writing practice. 英文を書く練習をする。	
	到達目標	To improve students ability to communicate through writing whilst developing a personal writing style. 各自が自身の文章能力を高めることによって、コミュニケーション能力おも高めることを目的とする。	
授業計画	(1) Hiragana Times translation (2) Diary composing (3) Time, person, verb, place (4) Ink blot composition (5) Spidergram (6) Dialogue writing (7) Pair work research (8) About / during / while (9) Scaffold writing (10) Replacing words (11) Writing animation text (12) Writing animation text (13) Scaffold writing (14) The key story (15) Test practice		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週日記を書いておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	担当者作成資料	
	【参】	Composition Practice - Blanton - Thomson ほか	
成績評価方法と基準	<基準> 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 <方法> 授業中の発表、コンとレビュー50% 試験 日記 50%		
備考			

科目名	ライティング・スキルズⅡ		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	豊かなコミュニケーション能力	一般的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、的確かつ効果的にコミュニケーションをとることができる。	2
科目概要	授業内容	Writing practice. 英文を書く練習をする。	
	到達目標	To improve students ability to communicate through writing whilst developing a personal writing voice and style. 各自が自身の文章能力を高めることによって、コミュニケーション能力おも高めることを目的とする。	
授業計画	(1) The key story (2) Haiku (3) Group story writing (4) Group story writing (5) Common expressions (6) 100 word research (7) Writing test (8) Word association (9) Scaffold writing (10) Manga writing (11) Picture stories (12) Gap-fill texts (13) Internet graded writing exercises (14) Internet graded writing exercises (15) Test practice		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。毎週日記を読んでおくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	担当者作成資料	
	【参】	Within your reach - Cliffe - Nan'un-do ほか	
成績評価方法と基準	<基準> 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 <方法> 授業中の発表、コントリビューション50% 試験 日記 50%		
備考			

科目名	カレント・イングリッシュ		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	豊かなコミュニケーション能力	専門的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、的確かつ効果的にコミュニケーションをとることができる。	4
科目概要	授業内容	毎時間国内外の情勢について質疑応答した後、1)BBCニュース を聴き、スクリプトを作成提出、2)英字新聞記事を読み、語彙構造を理解した上でサマリーを作成提出する。	
	到達目標	国内外の時事問題に関するBBC放送、新聞英語の語彙、構造に 親しみ、時事問題等について英語で理解、表現できるようになる。	
授業計画	(1) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (2) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (3) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (4) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (5) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (6) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (7) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (8) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (9) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (10) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (11) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (12) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (13) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (14) What's going on? BBC News today. The Guardian Weekly. (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・発表するニュース記事を準備する。課題記事の英文サマリーを作成する。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業で習った単語、表現を整理する。	
使用教材・参考文献	【教】	プリント (酒瀬川純行 A Companion to Practical English. 青山社 2000年) BBC News, The Guardian Weekly	
	【参】		
成績評価方法と基準	<基準> BBC News 及び英字新聞記事が凡そ理解できるようになったものは 合格とします。 <方法> 毎時間毎のコンツリビューション、課題提出70%、終了試験30%		
備考			

科目名	パブリック・スピーキング・スキルズ		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を概ね英語で理解し、表現することができる。	3
	豊かなコミュニケーション能力	専門的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、コミュニケーションをとることができる。	3
科目概要	授業内容	パブリックスピーキングの練習をします。個人学習とグループ学習を含みます。	
	到達目標	パブリックスピーキング能力における自信を生徒につけること。	
授業計画	(1) What is a speech? (2) Different types of speech (3) Reading speeches (4) Intonation practice (5) Rhythm practice (6) Practice speeches in pairs (7) Public speaking in groups (8) Ten minute group presentation (9) Reading speeches (10) Intonation practice (11) Rhythm practice (12) Practice speeches in pairs (13) Public speaking in groups (14) Practice 15 minute group presentation (15) Practice 15 minute group presentation		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 The Speeches of Barack Obama, CNN English Express ほか		
成績評価方法と基準	<基準> 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 <方法> 授業中の発表、コントリビューション50% 試験50%		
備考			

科目名	ディベート・スキルズ		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を的確に英語で理解し、表現することができる。	4
科目概要	授業内容	国内外の諸問題について知識を深め、自分の意見をまとめ、英語で論理的、批判的に発表、議論できるように、毎時間決まったトピックについてディベートを試みる。	
	到達目標	与えられたトピックに関し英語で自分の意見をまとめ、議論できるようになる。	
授業計画	(1) Internet Safety or Freedom of Expression? (2) Honour or Burden? (3) Clean Energy or Potential Threat? (4) Real Risk or Great Technology? (5) Legalization or Outlawing of Gay Marriage? (6) Separate Smoking Area or Total Ban? (7) Right To Die or Responsibility to Live? (8) Punishment or Discipline? (9) To Skip or Not to Skip? (10) Performance or Seniority? (11) Free Trade or Protection? (12) Animal Rights or Human Profits? (13) Peace Constitution or Revision? (14) Death Penalty or Human Rights? (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・テキストを前もって読み、ディベートする内容を英文で準備しておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に使われた英語表現を復習し、次回のディベートでの表現に取り入れる。	
使用教材・参考文献	【教】	Ueda, I., Ueda, T., Taoka, C. & Yoneda, E. Pros and Cons - Discussing Today's Controversial Issues. Cengage Learning Co., Ltd. 2014 ISBN 978-4-86312-252-9	
	【参】	Sakasegawa, S. A Companion to Practical English. Seizansha Co., Ltd. 2000 ISBN4-88359-041-0	
成績評価方法と基準	<基準>	テキストで扱ったトピックスについて英語で自分の意見をまとめ、議論できるようになったものは合格とする。	
	<方法>	授業中の発表、コンツリビューション50%、終了試験50%。	
備考			

科目名	英語の文法 I		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	日常生活において的確に英語を理解し、表現することができる。	2
	豊かなコミュニケーション能力	一般的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、的確かつ効果的にコミュニケーションをとることができる。	2
科目概要	授業内容	英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。	
	到達目標	8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。	
授業計画	(1) 文の構造と要素 (2) 文の種類 (3) 動詞 (4) 時制 (5) 助動詞 (6) 動詞の態 (7) to-不定詞 (8) 原形不定詞 (9) 分詞 (10) 動名詞 (11) 関係代名詞 (12) 関係副詞 (13) 比較級 (14) 最上級 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。	
使用教材・参考文献	【教】 河上道生 監修, 丸井晃二郎 著 『ORBIT 総合英語』 山口書店 1996年 ISBN4-8411-1387-8 【参】 なし		
成績評価方法と基準	<基準> 8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。 <方法> Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%		
備考	毎回の出席を心がけて下さい。		

科目名	英語の文法Ⅱ		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を概ね英語で理解し、表現することができる。	3
	豊かなコミュニケーション能力	専門的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、コミュニケーションをとることができる。	3
科目概要	授業内容	英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。	
	到達目標	8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること	
授業計画	(1) 不定詞 (2) 分詞 (3) 時制 (4) 進行形 (5) 完了形 (6) 態 (7) 仮定法 (8) 比較構文 (9) 否定 (10) 数量詞 (11) 法助動詞 (12) 副詞 (13) 代名詞 (14) 関係詞 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。	
使用教材・参考文献	【教】 プリントを使用。 【参】 なし		
成績評価方法と基準	<基準> 8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。 <方法> Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%		
備考	毎回の出席を心がけて下さい。		

科目名	英語学概論		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知	英米の言語・文化・文学・歴史の専門的事項を的確に理解している。	2
科目概要	授業内容	言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語現象(語、語句、文)を観察、分析する。	
	到達目標	英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。	
授業計画	(1) 統語論(1) (2) 統語論(2) (3) 統語論(3) (4) 形態論(1) (5) 形態論(2) (6) 形態論(3) (7) 音韻論(1) (8) 音韻論(2) (9) 音韻論(3) (10) 意味論(1) (11) 意味論(2) (12) 意味論(3) (13) 語用論(1) (14) 語用論(2) (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	数種の言語データの分析を毎週課す。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 An Introduction to Language. Victoria Fromkin and Robert Rodman.		
成績評価方法と基準	<基準> 与えられた言語(の文)に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものは合格とする。 <方法> Class Participation 50%, Final 50%		
備考	毎回の出席を心がけて下さい。		

科目名	英語の歴史		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く理解している。	3
	バランスのとれた国際感覚と国際社会に参加する態度	国際情勢を広く、深く理解し、積極的に国際的活動に参加する態度を身につけている。	3
科目概要	授業内容	英語の歴史の入門としての授業をおこなう。具体的には、今まであたり前と思っていた英語の知識を、客観的にもう一度、見直す作業をおこなう。	
	到達目標	英語の歴史に関連させながら、英語の基本語順、発音、語彙について理解ができるようにする。	
授業計画	(1) 変化しつつある英語 (2) 綴り字と発音 (3) アクセント (4) 共通語と方言 (5) アメリカ英語 (6) 言語戦争 (7) 近代英語期 (8) 中英語期 (9) 古英語期 (10) 名詞 (11) 不定冠詞 (12) 代名詞 (13) 副詞 (14) 動詞 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	歴史の知識、および英文法の知識の確認を毎週行う。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 中尾俊夫『英語の歴史』講談社現代新書 1989年		
成績評価方法と基準	<基準> 英語の文法を理解し、それらを用いて英語文を読めるものを合格とする。 <方法> Class Participation 50%, Final 50%		
備考	毎回の出席を心がけて下さい。		

科目名	児童英語		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	豊かなコミュニケーション能力	一般的な事項について、言語や言語外の表現方法を駆使して、的確かつ効果的にコミュニケーションをとることができる。	2
科目概要	授業内容	Gain experience creating and practicing games and activities to enable learning through play. クラスでゲームを考え、そのゲームを実行し、そのゲームを通じて学ぶ。	
	到達目標	Provide children with the tools to make words themselves through spelling, reading, writing and speaking. 子供たちが、読み書きを自発的にする能力を提供できるようになることを目的とする。	
授業計画	(1) Compare children's textbooks (2) Using props (3) Music in the classroom (4) Compare children's textbooks (5) Using video (6) Using the internet (7) Five minute presentations (8) Teach a short class in a local nursery (9) Using games (10) More songs and props (11) Reading picture books (12) Making picture books (13) Preparing a ten minute class (14) Practice ten minute class (15) Teach ten minute class in a local nursery		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	授業の内容を復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 Up and Away - Crowther - Oxford University Press ほか		
成績評価方法と基準	<基準> 授業時の活動への参加と、課題に合格することを単位取得の条件とする。 <方法> 授業中の発表、コントリビューション50% 試験 project 50%		
備考			

科目名	英語教育演習		
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の専門的事項を的確に理解している。	1
科目概要	授業内容	英語の教授法の歴史を振り返りながら、代表的な教授法の理念と特徴について学習する。Larsen-Freeman (1986)の一部の精読を中心に行う。	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の教授法の歴史を理解する。 代表的な教授法の理念と特徴を理解する。 	
授業計画	(1) Introduction (2) The Grammar-Translatioin Method (1) (3) The Grammar-Translatioin Method (2) (4) The Direct Method (1) (5) The Direct Method (2) (6) The Audio-Lingual Method (1) (7) The Audio-Lingual Method (2) (8) The Audio-Lingual Method (3) (9) The Total Physical Response Method (1) (10) The Total Physical Response Method (2) (11) The Total Physical Response Method (3) (12) The Communicative Approach (1) (13) The Communicative Approach (2) (14) The Communicative Approach (3) (15) Conclusion		
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 	
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容についてのクイズを行う。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 Larsen-Freeman, D. (1986). "Techniques and Principles in Language Teaching." Oxford University Press. ISBN: 019434133X		
成績評価方法と基準	<基準> 英語の教授法の歴史と代表的な教授法の理念と特徴を理解した者は合格とする。 <方法> 受講態度30%、課題ほか70%		
備考			

科目名	英米文学概論 I		
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の専門的事項を概ね理解している。	1
科目概要	授業内容	19世紀前半のアメリカン・ルネッサンスを中心に、作家や文化的背景を紹介し、作品の抜粋をできる限り原文で読む。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。	
	到達目標	19世紀のアメリカの資本主義の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。	
授業計画	(1) クール1-1: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—演劇とサーカス (2) クール1-2: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—ヒーローの登場 (3) クール1-3: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—『アラモ』を見る (4) クール2-1: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品① (5) クール2-2: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品② (6) クール2-3: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品③—『アッシャー家の崩壊』を見る (7) クール3-1: ナサニエル・ホーソンの文学① (8) クール3-2: ナサニエル・ホーソンの文学② (9) クール3-3: ナサニエル・ホーソンの文学③—『スカーレット・レター』を見る (10) クール4-1: メルヴィルと『白鯨』① (11) クール4-2: メルヴィルと『白鯨』② (12) クール4-3: メルヴィルと『白鯨』③ (13) クール4-4: メルヴィルと『白鯨』④—『白鯨』を見る (14) 質疑 (15) 総括		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。	
使用教材・参考文献	【教】 プリント、ビデオ 【参】 プリント、ビデオ		
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 <方法> 筆記試験80%、発言20%。		
備考			

科目名	英米文学概論Ⅱ		
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	ロスト・ジェネレーションのアメリカ文学作品と作家を概観すると共に、英語力を徹底強化する。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。	
	到達目標	20世紀のアメリカの消費社会の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。	
授業計画	(1) クール1-1: 世紀末から大戦期のアメリカ (2) クール1-2: 戦後(1920-)のアメリカ社会 (3) クール1-3: 『キング kong』を見る (4) クール2-1: フィッツジェラルドの生い立ち (5) クール2-2: 『グレート・ギャツビー』を見る (6) クール2-3: 『グレート・ギャツビー』分析 (7) クール3-1: アーネスト・ヘミングウェイの青少年時代 (8) クール3-2: ヨーロッパでの生活と『武器よさらば』 (9) クール3-3: スペイン内乱と『誰がために鐘は鳴る』 (10) クール3-4: 『老人と海』を見る (11) クール4-1: 1929年の大恐慌とその後 (12) クール4-2: スタインベックとカリフォルニア (13) クール4-3: 『怒りの葡萄』を見る (14) 質疑 (15) 総括		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。	
使用教材・参考文献	【教】 プリント、ビデオ 【参】 プリント、ビデオ		
成績評価方法と基準	<基準> 授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。 <方法> 筆記試験80%、発言20%。		
備考			

科目名	英米文学講読Ⅲ		
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く理解している。	3
科目概要	授業内容	現代アメリカ短編作家の第一人者であるWilliam Saroyan の作品を読む。 人種のるつぼと呼ばれているアメリカ合衆国に移住してきたアルメニア人の物語です。大人達は故郷を切望しながら、日銭稼ぎで生活していますが、子供達は夢一杯、カリフォルニアのフレズノーのぶどう農園を舞台に生きています。行間に溢れるペーソスと人生の宝となるべく英語の表現を楽しみたいと思います。	
	到達目標	楽しい英語の表現を暗唱したりして、それを使って読書感想文にまとめ上げられるように指導する。	
授業計画	(1) William Saroyan の紹介 (2) The Cat を読む (3) " (4) 読書感想文の準備 (5) Laughing Sam を読む (6) " (7) " (8) " (9) 読書感想文の準備 (10) Locomotive 38, the Ojibway を読む (11) " (12) " (13) " (14) 読書感想文の準備 (15) 期末テストに向けての質疑応答		
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	各作品ごとに読書感想文を英語で書かせる	
使用教材・参考文献	【教】 テキスト Best Stories of William Saroyan (成美堂) 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 到達目標を踏まえて良い読書感想文が英語で書ければ合格とします。 <方法> 期末レポート 80% 平常点 20%		
備考			

科目名	英米文学講読Ⅳ		
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く理解している。	3
科目概要	授業内容	前期に引き続きWilliam Saroyanの短編小説を読みます。英語に慣れてきているので、どんどん読み進みたいと思います。各作品読了毎に読書感想文を一つのテーマを見つけて英語で書いてもらいます。	
	到達目標	理路整然と並んでいる英語に影響されて、頭の中も論理的に物が考えられるようになってきていると思いますので、読書感想文も整理された文章で書けるようになること。	
授業計画	(1) The Pomegranate Trees を読む (2) " " (3) " " (4) " " (5) " " (6) 感想文の準備 (7) The Great Leapfrog Contest を読む (8) " " (9) " " (10) " " (11) 読書感想文の準備 (12) The Summer of the Beautiful White Horse を読む (13) " " (14) " " (15) " " 学期末レポートの質疑応答		
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・各作品読了毎に読書感想文を英語で書かせる。	
使用教材・参考文献	【教】 前期と同じ The Best Stories of William Saroyan (成美堂) 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 到達目標を踏まえて良い英文の読書感想文を解りやすく、読みやすいように書けると合格とします。 <方法> 期末レポート 80% 平常点 20%		
備考			

科目名	英米文学研究Ⅱ		
担当者	徳重 靖子 / TOKUSHIGE, Yasuko		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	英語の世界で昔から歌い継がれてきた快いリズムの詩を暗唱したり、又英語を話す人たちはどんなものを詩の題材としていたかを学びながら、英詩の世界を覗いてみる。	
	到達目標	学習者は必ず事前にわからない単語を辞書で引いてきて、少なくとも全体の意味を把握できるようになる。 その詩の魅力は何かを理解できるようになる。 好きな詩は暗唱する。	
授業計画	(1) 英詩の紹介 (2) Love's Secret Infant Joy (3) The Rainbow To The Cuckoo (4) Lucy The Daffodils Song (5) Something Childish, But Very Natural (6) A Lament When We Two Parted (7) La Belle Dame Sans Merci (8) The Enchanted Spring A Red, Red Rose (9) Auld Lang Syne Dream-Pedlary (10) The Last Rose of Summer Pippa's Morning Song (11) Dover Beach (12) The Miller's Daughter Crossing The Bar (13) What is Pink Song Song (14) Seasons Uphill (15) 期末テストの質疑応答		
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・心に残った詩を時々暗唱させる。	
使用教材・参考文献	【教】 テキスト A Flower Garden of English Poetry (英光社) 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 到達目標を踏まえて暗唱を確実にしたものは合格とします。 <方法> 期末課題 80% 平常点 20%		
備考			

科目名	英国の文化 I		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く説明することができる。	1
科目概要	授業内容	英国を支えてきた王室、政治、宗教、教育、マスメディア等の諸制度に焦点を当て、その歴史的背景や現在の姿を通して、英国の文化を総合的に考察する。	
	到達目標	英文資料を使って英国の諸制度について概略理解する。	
授業計画	(1) 英国概観 (2) 英国概観 (3) 王室 (4) 階級 (5) 国会 (6) 国会 (7) 司法 (8) 司法 (9) マスメディア (10) マスメディア (11) 宗教 (12) 宗教 (13) 教育 (14) 教育 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	学習した内容を復習し、重要事項、専門用語等を確認し、整理する。	
使用教材・参考文献	【教】	担当者作成資料(英文)	
	【参】	酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る 緑と石とゆとりの国イギリス』ISBN978-4-434-11728-2、UK in Japan (http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja)	
成績評価方法と基準	<基準>	上記諸制度の概要を理解し、説明できるようになった者は合格とする。	
	<方法>	プレゼンテーション等授業貢献(40%)、終了試験(60%)。	
備考			

科目名	英国の文化II		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く説明することができる。	4
科目概要	授業内容	英国の宗教行事、年中行事、食文化に焦点を当て、その歴史的背景や現在の姿を通して、英国の文化を総合的に考察する。	
	到達目標	英国の宗教、年中行事、食文化についてその内容と意義を概略理解する。	
授業計画	(1) 年中行事概観 (2) 年中行事概観 (3) ハロウィーン (4) ハロウィーン (5) ガイフォークスデイ (6) クリスマス (7) クリスマス/ホグマネイ (8) セントバレンタインズデイ (9) イースター (10) イースター (11) イースター/マザーズデイ (12) メイデイ (13) 食文化 (14) 食文化 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・学習した事項の内容と意義を復習し、専門用語等を整理する。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆとりの国イギリス』現代図書 2008年 【参】 ISBN978-4-434-11728-2 UK in Japan (http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja)		
成績評価方法と基準	<基準> 上記諸行事の概要を理解し、説明できるようになった者は合格とする。 <方法> プレゼンテーション等の授業貢献(40%)、終了試験(60%)。		
備考			

科目名	米国の歴史と文化 I		
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	バランスのとれた国際感覚と国際社会に参加する態度	国際情勢や国際的活動に参加するときの態度について深く理解している。	2
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く理解している。	3
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。	
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。	
授業計画	(1) 『白鯨』(1956年版)鑑賞 (2) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (3) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (4) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (5) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (6) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (7) 『パイレーツ・オブ・カリビアンーブラックパールの呪い』鑑賞 (8) ディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (10) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (11) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (12) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (13) Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl精読 (14) 『パイレーツ・オブ・カリビアン』との比較 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。	
使用教材・参考文献	【教】 Pirates of the Caribbean-Curse of the Black Pearl (ペンギン) 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 <方法> 筆記試験60%、会話テスト20%、発言20%。		
備考			

科目名	米国の歴史と文化Ⅱ		
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く理解している。	3
	バランスのとれた国際感覚と国際社会に参加する態度	国際情勢を広く、深く理解し、積極的に国際的活動に参加する態度を身につけている。	3
科目概要	授業内容	『パイレーツ・オブ・カリビアン』とメルヴィルの『白鯨』を精読、比較することで、英語の読解力を向上させると共に、作家の考え方やその背景となる社会状況について学ぶ。また、音声教材や映像作品も交えて、作品について深く学ぶ。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。	
	到達目標	現代英語の文法、語法や口語体を生きた英文の中で読み解くことで、実践的な英語読解力を身につける。また、作品の背景となった社会状況を理解する。	
授業計画	(1) 『パイレーツ・オブ・カリビアン―デッドマンズ・チェスト』鑑賞 (2) 『白鯨』の原文名場面精読(1) (3) 『白鯨』の原文名場面精読(2) (4) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (5) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (6) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (7) 『白鯨』(1998年版)鑑賞 (8) 前期の『白鯨』の授業についてディスカッション (9) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (10) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (11) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (12) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (13) Pirates of the Caribbean-Dead Man's Chest精読 (14) 『白鯨』との比較 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・学習箇所を繰り返し、読み、語句や表現法を覚える。 ・会話練習を継続する。	
使用教材・参考文献	【教】 Pirates of the Caribbean Dead Man's Chest (ペンギン) 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 教科書の英文を読み解き、授業中に質問する。 <方法> 筆記試験60%、会話テスト20%、発言20%。		
備考			

科目名	海外語学研修		
担当者	◎酒瀬川 純行 / 入江 公啓 / マーカス・シオボールド / 蒲地 賢一郎		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 演習 / 6単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	バランスのとれた国際感覚と国際社会に参加する態度	国際情勢や国際的活動に参加するときの態度について概ね理解している。	1
科目概要	授業内容	英国の歴史、文化、生活及び関連英語表現に関する事前講義。現地での45時間の英語研修、並びに週末研修旅行。研修に関するレポート。	
	到達目標	コミュニケーション手段としての英語を習得し、国際感覚を涵養する。	
授業計画	(1) 事前研修 (英国の概要) (2) " (英国の歴史と文化) (3) " (英国の歴史と文化) (4) " (英国の歴史と文化) (5) 語学研修と週末旅行 (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	配布プリントを前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	習った事項、単語、表現法を整理しマスターする。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 小池滋監修、『読んで旅する世界の歴史と文化 イギリス』新潮社 ISBN 4-10-601832-2 【参】 酒瀬川純行著『エッセイと写真で綴る緑と石とゆりの国イギリス』 現代図書 2008年 ISBN 978-4-434-11728-2		
成績評価方法と基準	<基準> 英国の文化を理解し、コミュニケーション手段としての英語が使えるようになる。 <方法> 事前研修10%、現地での研修80%、レポート10%		
備考			

科目名	日本語の音声		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	<p>音声(声)とは何だろうか? 音声はどのように作られているのだろうか? 本講義では、日本語に重点をおきながら、一般音声学について解説する。</p> <p>具体的には、「か」や「さ」には「が」「ご」といった濁音があるが、「あ」や「ま」などにはなぜ濁音がないのだろうかといった疑問に答えられる力を身につけられるよう、発声や発音のしくみについて理解を深めていく。</p>	
	到達目標	<p>1. 発声や発音の仕組みについて理解し、重要事項が説明できるようになる。</p> <p>2. 標準的な現代日本語の音声における母音・子音・アクセントなどの特徴を理解し、それを説明できるようになる。</p>	
授業計画	<p>(1) ガイダンス</p> <p>(2) 音声学</p> <p>(3) 音声</p> <p>(4) 音韻</p> <p>(5) 子音</p> <p>(6) 母音</p> <p>(7) 音節とモーラ</p> <p>(8) 現代日本語の音声①</p> <p>(9) 現代日本語の音声②</p> <p>(10) アクセント①</p> <p>(11) アクセント②</p> <p>(12) イントネーションとプロミネンス</p> <p>(13) リズムとポーズ</p> <p>(14) 鹿児島方言の音声</p> <p>(15) まとめ</p>		
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。 	
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行うため、授業内容をよく復習しておくこと。 	
使用教材・参考文献	<p>【教】 沖森卓也『日本語概説』朝倉書店、2010年、ISBN 4254515235</p> <p>【参】 斎藤純男『日本語音声学入門 改訂版』三省堂、2006年、ISBN 4385345880 松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』(CD付)アルク、1998年、ISBN 4872349415</p>		
成績評価方法と基準	<p><基準> 発声・発音のしくみや、日本語の音声における子音・母音・アクセントなどの基礎的なことが習得できており、また、現代日本語の音声の特徴などが理解できていれば、合格とする。</p> <p><方法> 期末試験50%、小テスト30%、受講態度20%</p>		
備考	教科書は、後期に開講する「日本語の文法」でも同じものを使用する。		

科目名	日本語の文法		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	ことばの規則とは何だろうか? 「私は行く」と「私が行く」は同じだろうか? 「は」と「が」の違いとは何だろうか? 少し立ち止まって考えてみると、疑問に思うことがたくさんある。このような日本語文法の疑問に注目しながら、日本語の文法についての理解を深めていく。	
	到達目標	1. 日本語の文法について理解を深める。 2. 文法理論および文法概念について理解する。 3. 日本語を客観的に見つめ、文法規則を見出す姿勢を身につける。 4. 現代日本語の文法のような問題に気付くことができ、その問題について考えをまとめることができる。	
授業計画	(1) ガイダンス (2) 語の意味 (3) 文の構造と成分① (4) 文の構造と成分② (5) 自動詞と他動詞 (6) 受動態と使役態 (7) 授受表現 (8) テンス (9) アスペクト (10) モダリティー (11) 主題と主語 (12) 複文 (13) 待遇表現 (14) 言葉のバリエーション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行うため、授業内容をよく復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	沖森卓也『日本語概説』朝倉書店、2010年、ISBN 4254515235 庵功雄『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える—』スリーエーネットワーク、2001年、ISBN 4883191788 加藤重広『日本語文法入門ハンドブック』研究社、2006年、ISBN 432738450X	
成績評価方法と基準	<基準>	日本語の文法や文法理論について基礎的なことが理解できており、また、現代日本語文法の様々な問題点に気づき、その問題について考えをまとめることができれば、合格とする。	
	<方法>	期末試験50%、小テスト30%、受講態度20%	
備考	教科書は、前期に開講する「日本語の音声」でも同じものを使用する。		

科目名	外国史概説		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	世界で最初の産業革命を経験し、19世紀にはイギリス帝国として世界の諸地域に大きな影響を与えたイギリスの歴史を通じて、近現代世界史を概観する。	
	到達目標	イギリス帝国の歴史を概観することで、国境を越えた歴史的な関係を理解することができるようになる。帝国の歴史が現代世界に残した影響を踏まえ、現代社会を捉えることができるようになる。	
授業計画	(1) 「イギリス」とは何か?—4つの地域と帝国の「遺産」 (2) 近代イギリスの起点 (1) —宗教改革と二つの「革命」 (3) 近代イギリスの起点 (1) —帝国の形成 (4) 「イギリス国民」の誕生—連合王国の成立 (5) アメリカの独立と帝国の再編 (6) 産業革命と近代社会の成立 (7) ヴィクトリア期のイギリス社会 (8) イギリス帝国とアジア—アヘン戦争とインド (9) 世紀転換期のイギリス帝国 (1) —アイルランド自治問題 (10) 世紀転換期のイギリス帝国 (2) —南アフリカ戦争と帝国主義 (11) 第一次世界大戦とイギリス連邦の成立 (12) 第二次世界大戦とイギリス帝国—衰退への序章 (13) 脱植民地化の時代 (14) 帝国からヨーロッパへ—イギリスとEU (15) 帝国支配が遺したもの—多文化社会の「苦悩」と共存への道		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・時折小テストを実施するので、毎回配布されるレジュメを見直して理解しておくこと。授業中に紹介された参考文献を読むこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。授業中にレジュメと資料を配布する。 【参】 川北稔/木畑洋一編『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣アルマ 2000年 ISBN4641121052、他、適宜紹介		
成績評価方法と基準	<基準>	授業で取り上げた近現代イギリス帝国史の基本的な事項が理解できており、論理的に説明ができていれば合格とします。	
	<方法>	試験を実施します。成績評価は期末に実施する試験が60%、受講態度を40%とし、受講態度は時節実施する小テストの結果、及びアンケートや感想文の提出状況から評価します。	
備考			

科目名	文化史概説Ⅱ		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を理解するための基礎的知識を幅広く身につけている。	2
科目概要	授業内容	近現代イギリス史、イギリス帝国史を題材に、近代化や都市化と文化との関係、宗教、階級、人種、ジェンダー、エスニシティと文化との関係を歴史的に検討する。	
	到達目標	イギリスを事例に、近代社会が形成されていく過程を知ることで、社会の諸制度や異文化を深く理解できるようになるとともに、現代社会や自文化を客観的にとらえる視点を身につける。	
授業計画	(1) 文化史とは何か (1) (2) 文化史とは何か (2) (3) 宗教とイギリス社会 (4) 「われら失いし世界」ー工業化以前のイングランド社会と歴史人口学 (1) (5) 「われら失いし世界」ー工業化以前のイングランド社会と歴史人口学 (2) (6) ジェントルマンであることーヴィクトリア時代の価値規範 (7) イギリス史におけるチャリティと社会福祉 (1) (8) イギリス史におけるチャリティと社会福祉 (2) (9) 紅茶と砂糖ー帝国と食文化 (10) 余暇の成立と大衆娯楽ー旅行と博覧会 (11) ジェンダーからみるイギリス近代 (1) (12) ジェンダーからみるイギリス近代 (2) (13) 教育と子供 (14) 言語と帝国主義 (15) 帝国が遺したものー多文化社会と歴史認識		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に紹介された参考文献を読んでおくこと。 ・時折小テスト(論述)を実施するので、授業で配布したレジュメ、資料を見直して理解しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は使用しない。授業中にレジュメと資料を配布する。	
	【参】	井野瀬久美恵編『イギリス文化史入門』昭和堂 1994年、ISBN4812294193 他適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>	文化とは何かという問題、近代社会の特質、階級、人種、ジェンダー、エスニシティの問題について理解できており、それらについて自分なりに考えをのべることができていれば合格とする。	
	<方法>	期末に出題するレポートが60%、受講態度を40%とする。受講態度は、時折実施する小テスト(論述式)の結果や、授業中に実施するアンケートや感想文の提出状況で評価する。	
備考			

科目名	地誌学 I		
担当者	宗 建郎 / SO, Tatsuro		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識, ②地域調査の手法, ③具体的事例の三つのステップで解説します。	
	到達目標	地誌学の基礎を理解し, 地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土1 (4) 地域あるいは風土2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析1 (7) 地域調査法—多変量解析2 (8) 地域調査法—多変量解析3 (9) 地域調査法—空中写真 (10) 地域調査法—主題図作成1 (11) 地域調査法—主題図作成2 (12) 地域調査法—主題図作成3 (13) 地域を見る—日本と九州 (14) 地域を見る—鹿児島 (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院, 1986年。		
成績評価方法と基準	<基準> 地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。 <方法> 試験50%, 授業内課題30%, 受講態度20%で評価します。		
備考	授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。		

科目名	地誌学Ⅱ		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<英語英米文化> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。	
	到達目標	地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献に見る地域の姿1 (3) 文献に見る地域の姿2 (4) 文献に見る地域の姿3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GISとは (7) 統計による主題図の作成1 (8) 統計による主題図の作成2 (9) 統計による主題図の作成3 (10) 地図に見る地域の姿 (11) 地図をつくる1 (12) 地図をつくる2 (13) 地図をつくる3 (14) 地図・図表を用いたプレゼンテーション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	地域調査の手法について復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。 【参】 後藤真太郎他『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座』古今書院 2007年		
成績評価方法と基準	<基準> 文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。 <方法> レポート50%、授業内課題30%、受講態度20%		
備考	授業の中で実際に作業を行います。		